

当院における急性冠症候群(ACS)に対する薬剤溶出型ステント(DES)の治療成績

【目的】 DES が使用されるようになり、ACS に対するステント植え込み術の適応は広がっていると思われるが、その治療成績に関しては十分な検討がなされていない。そこで今回、当院における ACS に対する DES の治療成績を検討した。【対象】 2017 年 8 月から 2018 年 10 月までに当院にて ACS に対し、DES を用いてステント植え込み術を施行した 55 症例を対象とした。【方法】 臨床的な胸部症状の有無と定量的冠動脈造影法＜QCA＞解析を行い、ステント再狭窄を検討した。追跡冠動脈造影は 55 症例中 30 症例で施行され、DES 留置後 5 カ月から 13 カ月の間に行われた。QCA 解析はステント植え込み術施行前後および慢性期の冠動脈造影＜CAG で＞行った。【結果】 留置した DES の内訳は Biofreedom＜BES＞31 症例 35 本、Xience＜BPES＞14 症例 20 本、Synergy＜EES＞10 症例 11 本、Ultimaster＜SES＞4 症例 4 本および Resolute＜ZES＞1 症例 1 本であった。追跡冠動脈造影が施行されたのは、BES14 症例、BPES8 症例、EES6 症例および SES4 症例であった。再狭窄を呈したのは 3 症例で、BES が 1 症例＜3. 2%＞、BPES が 2 症例＜14. 3%＞であった。再狭窄形態は 3 症例全て Mehran 分類の Focal type であった。【結語】 当院で ACS に対し留置された DES でステント血栓症は認めず、再血行再建術＜TLR＞は 3 症例＜5. 5%＞と良好な治療成績であった。